平成２９年１１月６日

江東区立深川第二中学校

生活指導部

**安全指導だより ～第９回～**

テーマ　公共施設での安全確保

　以前の安全指導だよりで「災害に対する備え」ということで、各家庭での災害に対する準備について考えてもらいました。学校においても毎月の避難訓練などで災害に対する備えをしています。しかし、災害は学校や家庭だけでなく、外出先で災害が起こる可能性もあります。そこで今回は「外出先に潜む危機について」、特に「首都直下地震」が起きたときを想定して、外出先での身の安全確保の方法について考えてみたいと思います。

**駅での発生**

落下物などから身を守り、ホームから転落しないよう近くの柱に移動。混雑して身動きがとれな

いときは、うずくまって揺れが収まるのを待ちます。地下鉄の場合、いち早く地上にでようとし

てパニックになる危険もあります。ホームから線路には絶対に降りず、揺れが収まったら駅員の

指示に従いましょう。

**電車内での発生**

　強い揺れを感知すると電車は緊急停車するため、人に衝突したり倒れたりする危険があります。

座っていたらカバンなどで頭を保護し、立っているときは姿勢を低くして身を守る。満員電車で

は手すりやつり革にしっかりつかまり、脚を踏ん張って倒れないようにする。揺れが収まったら、

乗務員の指示に従いましょう。

**繁華街での発生**

　落下物から身を守り、ビルの倒壊にも注意しながら、公園など安全な場所へ避難します。広いと

ころに逃げる余裕がない場合は、耐震性の高い比較的新しい鉄筋コンクリートのビルに逃げ込み

ます。人混みで最も怖いのがパニックになることです。人の多い場所こそ、冷静な行動を心がけ

ましょう。

**地下街での発生**

　停電で多くの人がパニックになり、非常口に殺到すると負傷の危険があります。落ち着いて落下

物から身を守り、柱や壁のそばで揺れが収まるのを待ちましょう。

**高層ビルでの発生**

　上階ほど大きく揺れます。来訪者としてビル内にいたら、共用部分のエレベーターホールなどで

姿勢を低くし、館内放送に耳を傾けましょう。

**エレベーター**

　エレベーターの中で揺れを感じたら、すべての階の行き先ボタンを押し、止まった階で降ります。

　閉じ込められたら、インターホンで連絡しましょう。

**百貨店・スーパー・コンビニ**

　百貨店・スーパーでは商品の散乱やショーケースの破損などに注意して、階段の踊り場や柱の近

くにいきます。コンビニでは買い物かごなどをかぶり、身を守りましょう。

**劇場・ホール・スタジアム**

　大勢の人が集まる劇場・ホール・スタジアムなどの施設では、あわてて非常口や階段に駆け寄ら

ず、館内放送や係員の指示に従います。

**山間地**

山間地では土砂崩れで生き埋めになるおそれがあるので、速やかに斜面や崖から離れます。余震

や降雨などで土砂災害の危険が高まるので注意しましょう。

**島しょ地域・海岸部**

　海岸には早くて数分で高い津波が到達する危険があります。隣近所に声をかけてすぐに高台へ逃

げます。周囲に高台がないときは、津波避難タワーなどに避難します。

**空港**

　首都直下型地震が発生しても建物の倒壊などの被害はないと予想されていますが、ガラスや天井

部材などの落下に備えて注意しましょう。

今回の情報は各家庭に配布されている、東京都が発行している冊子「東京防災」を参考にして作成いたしました。「東京防災」には緊急災害時のさまざまな対応方法が書いてあるので、これを機に家族で確認していただければと思います。